

C-9 児童の心身発達と乳児期の栄養法とその環境条件との関係について(第9報)

(IX) 離乳開始の時期と智能発達及び乳児期の栄養法との関係

宮崎大教育 ○ 秋山露子

1960年以後、児童の心身発達と乳児期の栄養法との関係とその環境条件について検討を重ねてきてより、児童の心身発達は生後6ヶ月以内の栄養条件に影響される事を明らかにした。本報は児童の発育の環境条件の一つとして離乳開始の時期と児童の智能発達及び生後6ヶ月以内の乳児期の栄養法との関係について検討するものである。

資料は1960年以來調査した中学生、小学生、10才児、幼稚園児、3才児の資料を基にして6,242名、24群について検討するものである。乳児期の栄養法を生後6ヶ月以内の栄養法別に母乳栄養法、混合栄養法、人工栄養法の三群に分類し、離乳開始の時期を生後6ヶ月以内、6ヶ月～7ヶ月、8～9ヶ月、10～12ヶ月、12ヶ月～、の五群に分類した。

智能発達はその年令に依じた検査結果による智能偏差値を用い、母集団の分散の均一性についてはF検定を行ない、平均の差はt検定を行った。智能発達と離乳開始の時期との関係は χ^2 検定を用いた。乳児期の栄養法及び都市と郊外及び田舎等生育環境の環境条件の違いによって幾分かの差はあるが平均智能偏差値は概ね6ヶ月以内離乳開始の群が智能発達が良くなる傾向が母乳栄養群、混合栄養群に認められ、人工栄養群は6～7ヶ月離乳開始の群が智能発達が良くなる傾向があり、栄養条件の豊かな都市は郊外及び田舎に比べて離乳開始が6ヶ月以内、6～7ヶ月、8～9ヶ月以内むしろ6～7ヶ月又は8～9ヶ月離乳開始の良くなる傾向が認められた。離乳開始の時期と乳児期の栄養法別による智能発達との関係はそれぞれ χ^2 検定で著しい有意差を示した。母乳栄養群 $\chi^2=125.4487$, 混合栄養群 87.4737 $P<0.01$ で人工栄養群は $\chi^2=8.5627$ $P<0.10$ である。都市は $\chi^2=24.173$ $P<0.01$ で有意であるが郊外は有意ではなかった。